

本章では、「ICTを活用した授業改善支援事業」のモデル校を対象として義務教育課が実施したアンケート調査の結果や、モデル校において見られたICT活用事例等に基づき、小・中学校におけるICTの効果的な活用の在り方等について述べていきます。各学校におけるICTを活用した学びの充実に向け、参考にしてくださるようお願いいたします。

第1部 義務教育課によるアンケート調査の結果から

1 アンケート調査の概要

学習におけるICT活用の効果に関する意識、児童生徒のICT活用の技能に関する意識、教員のICT活用指導力に関する意識等を把握することを目的としたアンケート調査を、令和5年11月に、モデル校の児童生徒及び教職員を対象としてオンラインにより実施しました。今年度は、従来の選択式の質問に加え、小学校第5・6学年及び中学校において、記述式の質問を新設しました。

回答状況
 小学校第1・2学年・・・244件
 第3・4学年・・・270件
 第5・6学年・・・320件
 中学校第1～3学年・・・648件
 教職員・・・・・・・・・・・・・130件

今年度のアンケート調査の質問項目、調査結果は、右からダウンロードできます。



2 調査結果から

前年度と同様、今年度の調査結果からも、学習におけるICT活用については、多くの児童生徒及び教職員が有効性を認めているという傾向を確認することができました。

児童生徒の調査結果では、ほとんどの質問において、肯定的な回答の割合（*1）が前年度調査を上回るか、同程度となっていました。

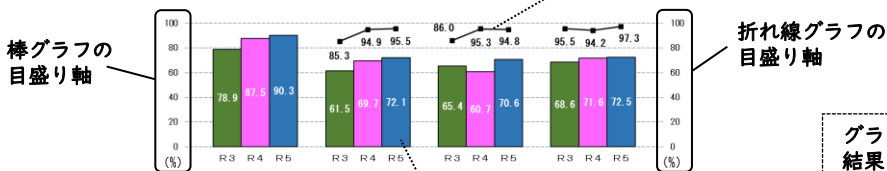
教職員の調査結果では、全ての質問において、最も肯定的な回答の割合（*2）が前年度調査よりも増加していました。特に、ICT活用指導力に関しては、最も肯定的な回答の割合が年々増加傾向にあり、教職員が自信をもってICTを使いこなしていることがうかがえる結果となりました。

ICTを活用した授業づくりに果敢に挑戦し続けてきたモデル校教職員の熱意、ICTを効果的に活用して学ぼうとする児童生徒の意欲の高まり等が、本アンケート調査の良好な結果に大きく影響したものと考えます。

- *1 肯定的な回答の割合……質問に対して「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」又は「できる」「ややできる」と回答した割合
- *2 最も肯定的な回答の割合……質問に対して「そう思う」又は「できる」と回答した割合

次ページ以降で示すグラフの見方

折れ線グラフと数値は、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」又は「できる」「ややできる」を合わせた、肯定的な回答の割合を表しています。



棒グラフと数値は、最も肯定的な回答である「そう思う」（小1・2年は「はい」）又は「できる」の割合を表しています。

グラフによっては、過去の調査結果における数値との差を、次のように表している場合があります。

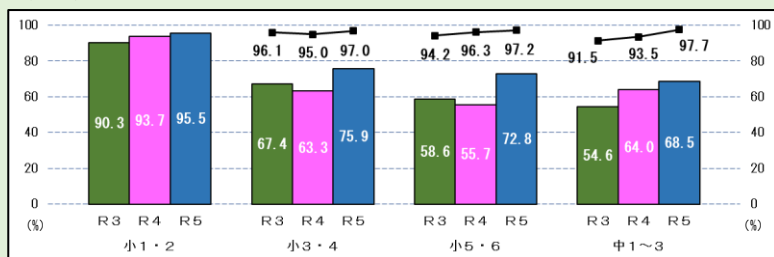
+8.6

ICTを活用した学習の分かりやすさに関する意識について

児童生徒・教職員とも、肯定的な回答の割合は、この3年間で最も高い数値となっています。教職員については、最も肯定的な回答の割合が令和3年度調査から26.1ポイント増加しています。モデル校において、「分かる授業・できる授業」の実現を目指し、ICTを「効果的に使う」「よりよく使う」「目的に応じて使う」等の視点を大切に学習指導を確実に進めてきた成果が、結果に表れています。

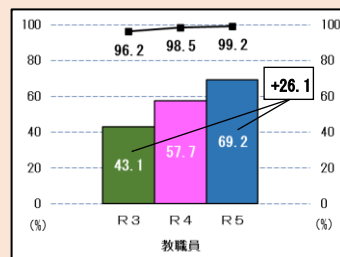
【児童生徒質問】

コンピュータやタブレットを使った学習は、分かりやすいと思いますか。



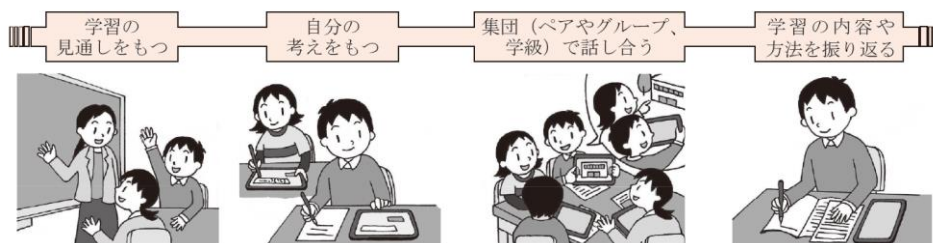
【教職員質問】

教師がコンピュータや提示装置などを使って指導したり、児童生徒がコンピュータを使って学習したりすることは、児童生徒が学習の内容を理解することに役立っていると思いますか。



「秋田の探究型授業」の各プロセスにおけるICT活用の有効性に関する意識について

【「秋田の探究型授業」の基本プロセス】



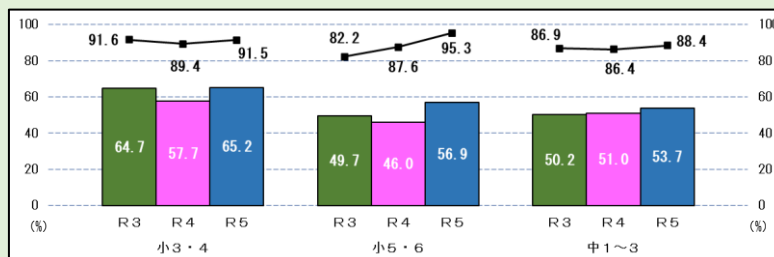
「秋田の探究型授業」については、「学校教育の指針」をご覧ください。

対象となる質問において、小学校児童は90%以上、中学校生徒は80%以上、教職員は90%以上が肯定的な回答をしていました。各プロセスの学習活動において、ICTを目的に応じて活用することの有効性を、児童生徒・教職員とも認めています。前年度、他のプロセスに比べて肯定的な回答の割合が低かった「学習の内容や方法を振り返る」プロセスに関する質問についても、数値の上昇が見られました。

「学習の内容や方法を振り返る」プロセスにおける同種の質問についての比較

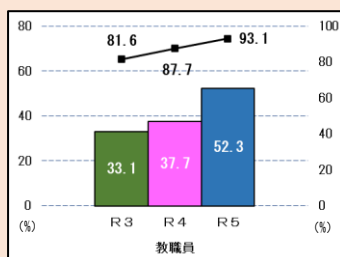
【児童生徒質問】

学習の内容や方法を振り返るときにコンピュータやタブレットを使うことは、何をどのように学んだかということや、何ができるようになったかということ、自覚することに役立っていると思いますか。



【教職員質問】

学習の内容や方法を振り返る際にコンピュータや提示装置などを使うことは、児童生徒が自身の学びや変容を自覚することに役立っていると思いますか。



教科におけるICTの有用性に関する児童生徒の意識について

モデル校の児童生徒が、どの教科の授業において最もICTが役立っていると感じているかについて、新設の質問により調査しました。

小学校第1・2学年では生活科、それ以外の学年・校種では社会科という回答が最も多くなっていました。また、小学校第4学年以下では国語、小学校第5学年以上では総合的な学習の時間という回答が、その次に多くなっていました。

【児童生徒質問】

学校で、コンピュータやタブレットが学習に役立っていると一番強く思うのは、どの授業の時間ですか。1つ選んでください。

	国語	社会	算数 数学	理科	生活	音楽	図工 美術
小1・2	26.6		25.8		31.6	0.8	5.3
小3・4	19.6	25.9	6.7	6.7		0.0	2.6
小5・6	8.4	32.8	9.1	10.0		0.0	0.6
中学校	4.0	26.4	12.3	11.7		2.5	1.1

	体育 保健体育	家庭 技術・家庭	外国語活動 外国語	道徳	総合的な 学習の時間	学級活動	※数値は%
小1・2	1.6			0.4		7.8	
小3・4	4.1		14.8	2.2	5.9	11.5	
小5・6	3.4	0.6	8.8	0.0	21.6	4.7	
中学校	11.1	1.7	2.9	2.0	23.6	0.6	

…最も多かった回答
 …2番目に多かった回答
 …3番目に多かった回答

加えて、小学校第5学年以上では、その教科を選んだ理由を記述する質問を新設し、児童生徒の意識をより詳細に把握できるようにしました。

記述内容からは、多くの児童生徒が、各教科等の特質に応じてICTを活用することにメリットを見いだしていることが分かりました。また、選んだ教科等におけるICTの活用頻度が他教科等に比べて高いということを理由に挙げている児童生徒もいました。各教科等の特質に応じた効果的なICT活用の在り方を模索するためにも、ICT活用の機会を積極的に設けていくことが大切であると考えられます。

【児童生徒質問】 ※小学校第5・6学年及び中学校対象

前の質問で、コンピュータやタブレットが学習に役立っていると一番強く思う授業の時間を1つ選んでもらいましたが、その授業の時間を選んだ理由を書いてください。

	教科を選んだ理由
社会	<ul style="list-style-type: none"> 一人で調べるときに自分のスピードで調べることができるから。(小学校) 自分の主張を補強するための資料がインターネット上にたくさんあるから。(中学校)
算数 数学	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや友達の考えを電子黒板にすぐ映して見ることができるから。(小学校) 人に説明するとき説明しやすく、図形をかくときも便利だから。(中学校)
総合的な 学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> グループのみなどと考えや資料を共有することができて便利だから。(小学校) 課題解決のための情報を集めたり、発表資料をつくったりするのに役立っているから。(中学校)

記述内容から一部抜粋

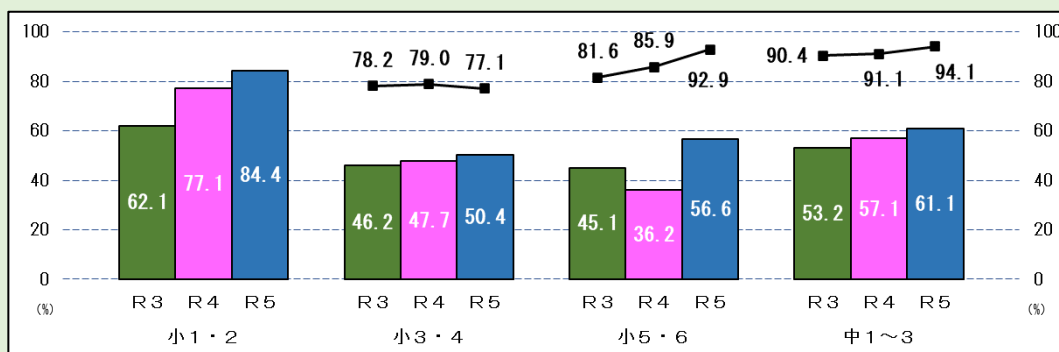
ICT活用の技能に関する児童生徒の意識について

前年度までの調査と同様、学年が上がるに従って、肯定的な回答の割合が増加する傾向が見られました。また、小学校第5・6学年と中学校の肯定的な回答の割合を比較すると、両者の差が小さくなっている質問もありました。この結果から、モデル校において、ICT活用の技能を含む情報活用能力を児童生徒に育むため、学校又は自治体策定の情報活用能力系統表を基盤とした教育活動を推進してきたことや、身に付けた情報活用能力を児童生徒が活用・発揮する場を意図的に設けてきたことなどがうかがえます。

ICTを活用して発表することに関する質問

【児童生徒質問】

あなたは、自分の伝えたいことが相手に分かりやすく伝わるように、コンピュータやタブレットを使って資料を作成したり発表したりすることができますか。



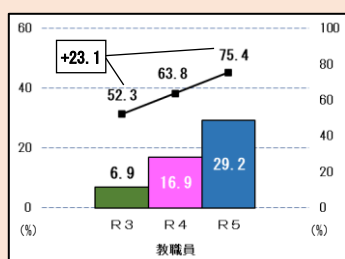
ICT活用指導力に関する教職員の意識について

肯定的な回答の割合が、前年度の調査から大きく増加した質問がありました。また、令和3年度調査において、肯定的な回答の割合が少なかった質問についても、年々改善の傾向が見られます。

令和5年9月から11月にかけて、モデル校において授業研究協議会が行われました。公開授業では、自信をもってICTを活用して指導する教員の姿が見られました。モデル校においては、この3年間、教職員のICT活用指導力向上のための校内研修を組織的・計画的に行っており、大きな成果を上げています。本アンケート調査における好ましい結果も、その成果の一端と言えます。

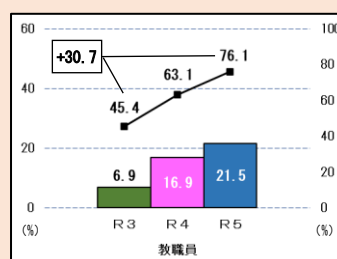
【教職員質問】

あなたは、グループで話し合っ考えをまとめたり、協働してレポート・資料・作品を制作したりするなどの学習の際に、コンピュータやソフトウェアなどを児童生徒に効果的に活用させることができますか。



【教職員質問】

あなたは、児童生徒が互いの考えを交換し共有して話し合いなどができるように、コンピュータやソフトウェアなどを活用することを指導することができますか。



ICT活用に際し困っていることに関する児童生徒の意識について

モデル校の児童生徒が、授業においてICTを活用する際にどのようなことに困っているかについて、新設の質問により調査しました。小学校第5学年以上を対象に、困っていることの内容を記述する質問とし、児童生徒の意識をより詳細に把握できるようにしました。

記述内容を見ると、70%以上の児童生徒が、困っていることはないと回答していました。一方、困っていることとしては、小・中学校とも、通信の不具合やコンピュータの処理速度に関する内容が目立ちました。

【児童生徒質問】

学校の授業でコンピュータやタブレットを使って学習しているとき、どのようなことに困っていますか。1つ書いてください。困っていない場合は、「なし」と書いてください。

「なし」と回答した割合

校種・学年	割合
小学校第5・6学年	70.3%
中学校	76.1%

困っていることとして多かった回答の内容とその件数

校種・学年	記述内容	件数
小学校第5・6学年	通信の不具合に関すること	14
	フリーズや遅延に関すること	25
中学校	通信の不具合に関すること	33
	フリーズや遅延に関すること	35

また、小学校と中学校の記述内容を比較してみると、特徴的な傾向が見られました。小学校では、文字入力に関する記述が、中学校よりも多く見られました。一方、中学校では、小学校の回答にはなかった、目の疲労に関する記述やいたずら等に関する記述が見られました。

この結果から、小学校児童には、文字入力や文字変換を含むICTの操作技能を身に付け

校種ごとの特徴的な回答の内容とその件数

校種・学年	記述内容	件数
小学校第5・6学年	文字入力や文字変換等に関すること	19
	いたずらや目的外使用等に関すること	0
	目の疲労に関すること	0
中学校	文字入力や文字変換等に関すること	5
	いたずらや目的外使用等に関すること	9
	目の疲労に関すること	4

させるための指導を、中学校生徒には、情報モラル教育や健康面に関する指導を一層充実させる必要があると思われます。県内各学校においても、自校の児童生徒が困っていることは何かを把握し、学校として実現可能な手立てを講じていくことが大切です。その際には、件数の多寡に関わらず、児童生徒のために喫緊で対応すべき課題は何かを明確にすることが必要です。

ICT活用の課題に関する教職員の意識について

ICTを活用する上で課題と感じていることは、前年度までとほぼ同様の傾向でした。授業のどの場面でICTを活用することが効果的なのかを模索し続けるとともに、ICT活用指導力の向上を目指してきたモデル校教職員の意識の高さが、この結果に表れています。

【教職員質問】

授業においてコンピュータなどのICT機器を使って指導するに当たり、最も課題と感じていることを、1つ選択してください。

質問	最も多かった回答		2番目に多かった回答		3番目に多かった回答	
最も課題と感じていること	ICTの利用場面の見極め	31.5	教師のICT活用指導力	26.2	児童生徒の情報モラル	10.8

※数値は%